

福岡講倫館高等学校を卒業した先輩方にインタビューを行い、紹介していきます。

第1回目は、4期生の緒方さんです。

**緒方 裕大 (4期生) 卒業後の進路:九州大学 農学部
現在:九州大学 農学部博士課程**

もともとは農業を学びたいと農業高校へ進学を考えていたのですが、本校へ入学されました。いろいろと学びたいことを学べる講倫館で高校生活を送ることができてよかったと語られました。

生物の授業で植物の仕組みを見て、「美しいことが起きている…、統率の取れた仕組み…」と感動。進路選択では、植物の先端研究も領域外も幅広く学べる九州大学に興味をもち、大学合同説明会でAO入試のことを知ったそうです。担任の先生に相談したところ「行け」と言ってもらえ、友達から「行きたいならがんばれ」と応援してもらったことを糧にして、合否の可能性を気にせずに行きたいから頑張ろうと(当時の)センター試験とAO面接に全力で取り組んだそうです。

自分がしたいことで進路を選んで取り組み、大学では生物はもちろん哲学や経済、外国語と、知的好奇心を満たす様々な学びに出会い、何でも勉強できる環境に身を置けた大学生活の喜びを語られました。そんな緒方さんは、進学そのものを目的に入学した同級生に「何しに来たのだろうか?」と、驚いたそうです。「講倫館には、役者になるため上京した人、美容師になるために専門学校に行った人、好きなアニメキャラに近づきたいとドイツ語学科に行った友達がありました。進路そのものより、進んだ理由や気持ちを大事にしている人が素敵だと思います。」と語られました。

現在も楽しく充実している話をたくさん伺えたのですが、キーワードは「自由度」のような印象を受けました。そこで、「自由って、うまく対応できずに、違う方向へ進んでいこうとする人がいませんか?」と尋ねたところ、次のような言葉が返ってきました。

「何でもいいから、やりたいことを言葉にして、周りの人に言い続けることが大事だと思います。そうすれば、自分自身これがしたいという思いも高まり、助けてくれる人にも出会えます。もちろん、気持ちが言葉とずれていること、気持ちがそもそも変わることはあります。そしたら修正したり変更したりすればいいだけです。周りから意見をもらって修正することも逆に明確になることもあります。そうやって、やりたいと思っていることは何回も変わっていったけれど、自分の中では常につながった1本のみちの上。自由でも、その時のやりたい事に向かっているならば変な方向には行かないです。何がやりたいかわからないのに自由な状態にあると、変な方向へ進むこともあるのかもしれないですね。」

インタビューさせていただいた緒方さんの印象は、「The 講倫館」ですとお伝えしたところ「今まで自分からそう名乗っていたので、初めて他人から言われました」と喜んでいらっしゃいました。

後から写真を送っていただいたのですが、写真のジャケットとアスコットタイは、緒方さんご自身が縫製されたものです。福岡講倫館高校での学びの一つとおっしゃっていましたが、立派な出来とともに、ご自身の結婚式に向けて自分で作ってみようと思われた凄さは、人生を楽しんでいらっしゃる感じがして素敵だなあと思いました。

